

放課後等デイサービス評価表（保護者向け）

はなえみ学舎 本荘キャンパス

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など	参考情報・改善点など
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	7	5	0		国基準：24.7㎡以上 はなえみ学舎：115.9㎡ さくらキャンパス：101.6㎡ みくらまちキャンパス：79.5㎡
	2	職員の配置数は適切であるか	10	2	0	・不足よりはいいと思いますが、多すぎると感じる事はあります。	国基準：3名（1施設あたり） はなえみ学舎全体30名(常勤換算15.7名)
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	3	5	3		
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	0	8	5	・情報共有がもっとあればいいと思います。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	6	4	2	・今まで通り実施された方がいいと思います。	昨年、今年と規定どおり実施。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	5	5	1		昨年分、規定どおり掲載。 今年分、集計後掲載。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	4	5	3		第三者評価を行っていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	7	6	1		・本年度、身体拘束と虐待に関する研修を全職員が行った。 ・強度行動障害支援者研修に6名参加。 ・機関相談支援センター主催の研修に2名参加。 ・児童発達管理責任者に3名参加。 ・大学が主催する研修に2名参加。 ・他、参加できる研修を月予定に記載し、希望により参加できるようにしている。
適切 な 支	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	4	4	1		・保護者や子ども、相談員、自発管によるアセスメントの機会を必ず設けている。 ・学校との連携が必要な場合は、担任の先生も参加している。 ・そのアセスメントをもとに計画を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	2	7	3		・心理検査や各種検査結果と聞き取りをもとに特性などを把握している。 ・アセスメントツールもあるが利用していない。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	3	8	2		・活動プログラムの立案は主に担当者が行い、要項などを配布して役割分担をしてチームで行っている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	4	7	0		・学習支援、スキルトレーニングの他、季節にあった工作や外での活動、調理などを様々な支援の場を準備している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	2	9	2		

援 の 提 供	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	4	8	0		集団活動を中心とし、適宜個別の支援を行っている。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、心理担当職員が新たに加わったので、高い専門性をいかした個別支援を今後充実させていきたい。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	3	4	5		出勤時間が異なるため、全員での打ち合わせは行っていない。今後は施設ごとの打ち合わせを毎日、全体での打ち合わせを週1回行って行く。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	0	6	6	・職場の退社時間が異なるため、共有できないことが多い。	退勤時間が異なるため、全員での打ち合わせは行っていない。今後は施設ごとの打ち合わせを毎日、全体での打ち合わせを週1回行って行く。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	6	4	2		共有のバインダーを準備し、支援と子どもの様子について記録している。その記録をもとに保護者へ日々の様子を伝達している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	7	4	1		職員、保護者、相談員によるモニタリングを実施し、計画の見直しに役立てている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	3	7	2		①自立支援と日常生活の充実のための活動、②創作活動、自然とのふれあい③地域交流の機会の提供④余暇の提供の全てを活動に組み合わせ取り入れている。加えて、今後は理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、心理担当職員による専門的支援を行っていく。
関 係 機 関 や 保	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	6	4	2		アセスメントの段階から関わり、モニタリング、学校・保育園・施設訪問に関わってきた職員が毎回参加しているが、ふさわしい者でないのであれば、今後他の者を人選していく。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	5	6	1	・学校から配られるお便りなどで把握している。	学校から配布される計画表や予定表、学級通信などのコピーをもとに下校時刻を把握し、毎日出席表や送迎一覧を作成している。変更があればその都度連絡し、トラブルがあればスタッフ間で密に連絡をとっている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	2	8	2		医療的ケアが必要な子どもは在籍していない。また、対応できる設備や職員準備できないため、今後も受け入れる予定はない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	2	8	2		就学前に利用していた保育園（小学1年新学期から利用する場合）保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等から聞き取りや訪問を全員行っている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	1	10	1		障害福祉サービス事業所への訪問、情報共有のための担当者会議を学校の職員も含めて実施している。（本年度は卒業者2名、転出者1名）
25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	3	7	2		基幹相談支援センターの職員との情報交換や担当者会議の実施など密に行っている。基幹相談支援センター主催の研修や助言、情報は当施設にとって有益であり、助かっている。	

護者との連携	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	2	2	9	・公園などで他の子供たちと一緒に遊ぶことがある。	他の学童との交流は行っていない。「はなえみパティシエ」や土曜日など、利用者の兄弟や関係者との交流、ボランティア、アルバイトの高校生、学生との交流あり。 そもそも当施設では支援はするものの「障害のある子」としてでなく、「子ども」としてスタッフも接しているので、それぞれの有用感のもと子どもたち同士も「障害児同士として」接している訳でもない。
	27	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか	0	8	5		由利本荘市障がい者支援協議会による協議会、研修会に参加している。また、それに関わるメンバーでケース会議を行い、利用者だけでなく利用者の家族の自立支援等も目指している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っているか	7	5	1	・そのように見えます。	支援や子どもの様子を毎回、療育システムを通じて保護者に写真付きでお知らせしている。それに対する保護者からの感想や情報提供もあり、有意義なものとなっている。また、送迎時に保護者と会う機会もあるので、その際に情報交換をするように努めている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	0	7	4		「親に施設が教えてあげる」といった啓蒙的な雰囲気は、両者の関係をギクシャクさせる可能性もあるので、ペアレント・トレーニングと銘打って行うことはしていない。 しかしながら、共に子どもを育てて行くための情報共有や希望による面談、相談、宿泊訓練などを行い、保護者の負担を軽減しながら子どものよさを伸ばさせて行く共感的な場の設定は心がけている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	6	5	1		ご利用前の見学時、契約時に説明をしている。また、不明な点があれば資料や実績表をもとにいつでも説明している。 月ごとの詳しい利用明細は毎月請求書とともに郵送している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	6	5	1		家庭訪問支援、事業所内支援（面談）などを行っている。ソーシャルワーカーでもある社会福祉士が相談に入ることによって、家族だけでなく学校や他の福祉施設との連携も図ることができ、特に不登校や癩癩に関する一定の成果を出すことができた。 不登校児童生徒の朝からの利用、保護者の勤務事情による早朝支援、宿泊訓練なども行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	0	8	4		父母の会は作られていないが、作られた場合は当然活動を支援して行く。保護者の交流を求める保護者と求めない保護者が混在しているのが現状のため、全保護者が参加する保護者会は設定していない。 公文式学習の懇親会、説明会は行ったが、8名ほどの参加があったものの、保護者間というよりは、一保護者対一職員という個別の関係で盛り上がっている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	7	5	0		特に事故や怪我、心の状態についてできるだけ丁寧に伝え、誠意を持って対応しているつもりである。苦情があった際は保護者の思いに傾聴し、丁寧に対応して行きたい。

	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	2	4	6		会報は発行していない。はなえみパティシエのチラシは毎回発行し、参加者が増えている。活動概要や行事予定、連絡等の情報をホームページや療育システムを使って発信している。また、重要なお知らせに関してはネットによる伝達だけでなく、文書を郵送している。
	35	個人情報に十分注意しているか	11	1	0	・スマートフォン、タブレットに暗証番号を設定していない。	守秘義務の宣誓をしている。日案も含め、子どもの情報の記載された文書を廃棄するときは必ずシュレッダーで処理するよう、各施設に準備している。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	6	5	1	・そのように見えます。	職員間における配慮の差はあるかもしれない。今後、統一するべきところは統一しながらも温かい配慮に務めたい。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	0	7	5		施設の広さ、職員数、子どもの特性などを考えても地域住民を招待するのは簡単なことではないと考える。 しかしながら、カダーレなどを利用して子どもの製作したものを展示したり、作った菓子などを試食してもらう機会は今後実施して行く予定。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	3	2	7	・職員間の具体的な対応の訓練が必要。	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルはホームページに掲載し、いつでも誰でも見られるように公開している。 緊急時の対応については、契約書にも掲載し、契約時に全保護者に確認していただいている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	0	1	11		運動で使用する体育館が最寄りの避難場所になっており、送迎車や徒歩での集団移動を非常時の練習も兼ねて行っているが、子どもの特性を考慮し、緊急ベルの使用、救出訓練などは行っていないので今後工夫して行っていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	7	4	1	・研修機会が確保されている。	虐待防止の研修を数回に分けて開き、に全職員が参加している。 また、研修の報告書を作成し、管理者に提出している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	3	7	2		身体拘束については、利用契約書にも掲載し、契約時に全保護者に確認していただいている。基本的にしないこととしている。 やむを得ずする場合は、基準の通理、「切迫性」「非代替性」「一時性」の三つの要件を満たし、かつ、それらの要件の確認等の手続きが極めて慎重に実施されるものと研修を受けている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	3	6	3		食物アレルギーに関しては契約時に確認をしている。エピペン使用など医師の指示書のある利用者は現在いない。(過去に対象児童がいたときは、エピペンの保管場所、使用方法、練習などを全職員で行っている。)
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	1	3	8		「ヒヤリハット」という言葉は使ってはいないが、日案を通じて施設での具体的な出来事や子どもの様子を記載し、伝達し、共有している。支援や施設整備に繋がってきているが、徹底されていないことも多いので、共有する機会を増やし徹底していく。